

施策名	宇宙輸送システム（第3期科学技術基本計画における国家基幹技術）
担当府省	文部科学省
施策の目標	我が国が必要な時に、独自に宇宙空間に必要な人工衛星等を打ち上げる能力を確保・維持することにより、我が国の総合的な安全保障や、国際社会における我が国の自立性を維持する。
予算要求額等の合計	平成24年度 250億円（平成23年度 212億円）
実施期間	平成9年度～平成28年度まで
<p>【進捗の状況について】</p> <p>○H2A ロケットの高度化（静止衛星打ち上げミッション対応能力向上等）について、全体システムの基本設計を完了し詳細設計段階へ移行している。平成25年度の飛行実証へ向けて、着実に開発を進めていくことが重要である。</p> <p>○欧州・米国のロケットと比較して低予算で開発したH2A、H2B ロケットについて、打ち上げ成功数を重ねることで、諸外国に比肩する成功率（95%）を達成した。</p> <p>○HTV2号機の国際宇宙ステーションへの物資補給に成功した。平成28年度に計画されているHTV7号機まで、経験と技術の蓄積による効率化の促進、および国際貢献の継続が重要である。</p> <p>【改善の状況について】</p> <p>○H2A ロケットの高度化の開発項目の絞り込みやH2A ロケット打ち上げ事業の民間移管など、社会、経済、国の財務状況の変化に対応したプロジェクトの改善が行われている。</p> <p>○これまでの科学成果を検証し今後の計画に反映させることが重要である。</p> <p>【今後の取組に向けた所見】</p> <p>○本施策は、国民の日常生活と乖離しやすい案件であり、国民の理解を得るためのアピール、目標ビジョンを明確化する必要がある。</p> <p>○競争力の観点からは、日本の不利な打ち上げ地理的条件および超円高の状況の下で、H2Aの性能や信頼性を落とさず、商用打上市場での競争力をどのように獲得するかロードマップを明確化すべきである。</p> <p>○国家基幹技術の維持の観点からは、要素技術、解析技術など基礎的な工学知見の獲得と並んで人材育成をさらに進めていく必要がある。</p>	

ある。

○将来的には、各省連携をさらに促進し、宇宙輸送の開発から利用までを一つの施策パッケージにまとめることを考えるべきである。